

「性をきちんと勉強して人生観が変わった」 総合学習で高校生がジェンダーを学ぶ意味は大きい

本校は、2000年度男女共学を機に高校一年時に週1時間の総合学習「人間の性と生」の授業を設定した。教科横断的な内容を持った全くのオリジナルな授業にジェンダーの視点を据えた。高校生の意識や関心と組み合わせた「知りたいことを真っ向から取り組む」中身を扱うこと、そして生徒が持っている「性の常識、刷り込まれてきた定説、思い込み」を科学的に「ひっくり返す」授業展開を持ち込んだ。ネットをはじめメディアから、時には友人から仕入れた「不確かな」知識や情報を持つ生徒を責めることはしない。なぜなら、生徒は科学的な知識や、現実を正確にリアルに反映した学習をする機会は少なかったと振り返り、「中途半端な学習」をしてきたという現状からは中学までの教育の課題が見えてくるからだ。

授業は「ジェンダーを考える」「多様な性を

考える」「刷り込まれる性」「レイプ、セクハラを考える」「結婚から見える性と生き方、社会」「ジェンダーの縛りから解放された男・女の生き方」など、生徒は投げかけられた問いに真剣に立ち向かう。中学時代に先生から「男らしさ」を強く求められ「自分のような男性は男性と言えるのか悩むようになった」とそのつらさを吐露した生徒は、一年間の授業を終えての作文にこう書いている。「ジェンダーという概念をはじめ、心と体の性や同性愛といった多様な性のあり方を学ぶにつれ、私の悩みは次第に薄れていった。人は男と女という二元論で見がちだが、だからといって心までそれに縛られる必要はない。自分は自分であれば良い。人は自由に生きていい。男らしさや女らしさの『押しつけ』の部分しか見なかった私が各々の人間らしさが本来持つメッセージと素直に向き合



ひめま しんきち
日沼 慎吉
私立正則高等学校(東京都)
校長

えた『転機』がこの授業でした。」

人間が人間らしく生きることによって性がどう関わり位置づくのか、見えなくなっている人達がむしろ増えているのではないだろうか。

高校生の発達段階からしても、18歳選挙権が実現し、主権者として育つための高校教育にとっても「生き方としての性」を学ぶ必要性が増している。生徒はジェンダーの視点と人間の生との関わりで性を学び、社会や自分の身の回りの出来事、そして自身の発想や行動をとらえ直し、振り返りの意味づけを試みる。その学びの過程で、一人ひとりのセクシュアリティが揺さぶられ、問われ、作り直しが行われている。仲間と安心して心を開き合って性を学ぶ場所が必要とされている。「歩くジェンダー」と呼ばれて19年、校長の仕事はもちろん大切だが、この授業はやめられない。

Cutting-Edge

[カティング・エッジ]
ジェンダー問題解決の
カギを提示する
最前線書誌情報誌



候補者男女均等法への期待



おおやま なお
大山 七穂
東京女子大学現代教養学部教授

候補者男女均等法の成立

2018年5月16日「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律(候補者男女均等法)」が成立した。2005年の第2次男女共同参画基本計画で「2020年までに指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%にする」という目標を掲げ、2010年の第3次男女共同参画基本計画で「政治分野における女性の参画拡大の重要性からポジティブ・アクションの検討」を求めたものの、この間の女性国会議員比率は1、2割で頭打ちであった。こうした中、女性議員の増加に有効とされ世界各国で実施されてきたクォータ制がこの春、ようやく導入される運びとなったのである。

この法律は、「国会及び地方議会の選挙は、政党等の政治活動の自由を確保しつつ、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指して行われるものとする」という基本原則を掲げた理念法であり、実効性を疑問視する声も大きい。しかしそれでも、世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数や列国議会同盟の女性議員比率ランキングの低さに現れているように、世界標準から大きく外れた日本の政界の実情を問題視させるきっかけとなったと考えられる。

女性議員の増加を求めて

そもそも、なぜ女性議員を増やさなければならないのか。有権者の半数は女性である。にもかかわらず、議会において女性議員比率が低いということは、議会が女性有権者を代表していないことになる。法律制定や政策決定に際し、女性を取り巻く問題が取り上げられない、女性の視点が反

映されない可能性が高いということだ。しかし、女性有権者も男性政治家を選んでいるのではないかという反論が出る。ただ選んでも女性候補者は少ない。女性候補者がゼロという選挙区も少なくないのである。

かつて選挙では全てを委任できる「信託者」を選出していた。しかし多様な人々が多様な状況で暮らしている複雑な現代社会では、いかに能力・資質に優れた人であろうとすべてを託すのは難しい。人の社会的想像力には限界があり、自身が経験していないことや関心・共感を抱きにくいことに関する議論は軽んじられ、問題解決は先延ばしにされがちである。そこで、自分と類似した特性や経験を持つ人を「代理」として議会に送ることが望ましいという考えになる。

一方、女性だからといって女性を代表するとは言えない、という反論もある。男性議員でも女性有権者と問題意識を共有し政治的解決に努める人もいる。女性議員でも女性のために政治活動をしているようには見えない人もいる。しかしある程度の女性議員が議場を占めるようになれば、女性であるが故に直面する問題が取り上げられ、女性の視点で解決を図ろうとする動きが起りやすくなることも確かだ。何を政治的課題とみるのか、どのように問題解決を図るのか、女性議員が増加することで政治的プロセスも変わってくる。

日々の暮らしの中で女性としての生きづらさがあるとすれば、それは社会的問題であり政治的解決が求められる。そのためには多くの女性議員が必要であり、多くの女性議員が選出されるためには多くの女性候補者が必要なのである。

& MORE

テーマ 「素朴で勇敢な50人の先駆者たち」

もとむら ゆきこ
元村 有希子 (毎日新聞科学環境部長)

1960年代アメリカで宇宙計画に従事した女性科学者を描いた映画「ドリーム」。黒人、女性という二重の差別と闘うキャサリンが、往復20分はかかる場所にある専用トイレに行かざるをえず、長い中座を非難する上司に憤然と言り返す場面が印象的だ。組織がいかに「白人男性中心」に作られているかを知った上司は、それを機に彼女を認め、もり立てるメンターとなる。キャサリンは本書が選んだ「世界を変えた50人」の1人である。

STEM(科学、技術、工学、数学)にかかわる女性を増やそうと日本政府も知恵を絞るが順調ではない。ロールモデルの少なさに加えて、昇進を阻む「ガラスの天井」が存在するせいだ。この夏には、私立の医科大が女子受験生に不利な入試操作を行っていたことも明るみになった。

本書が紹介する「実際は女性の功績なのにそれを男性によるも



- 世界を変えた50人の女性科学者たち
- レイチェル・イグノトフスキー 著
- 野中 モモ 訳
- 創元社
- 2018年初版
- 1,800円(税別)

のとみなしてしまう誤りは、猫よりもしぶとく生き続けている」というハータ・エアトンの言葉も、男性たちは肝に銘じるべきだろう。自然科学分野のノーベル賞受賞者のうち、女性は17人にすぎない。

数学者の広中平祐氏は「女性は科学に向いている。なぜなら女性は素朴で、ナイーブで、勇敢だから」と述べた。そんな女性たちが魅力的なイラストとともに描かれるこの本を、「女のコが科学なんて」と無意識に思っている大人たちにこそ読んでほしい。願わくは、第2弾、第3弾と版を重ね、その中に日本人も記されんことを。



北九州市立男女共同参画センター・ムーブ

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4

Tel: 093-583-3939 ホームページ: <http://www.kitakyu-move.jp>
Fax: 093-583-5107 E-Mail: move@move-kitakyu.jp

Cutting-Edge 第64号

発行 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
発行日 2018年10月1日
指定管理者は(公財)アジア女性交流・研究フォーラム

ムーブの Facebook ページでも色々な情報を発信しています。アクセスはムーブHPから。